

「学びナビ」が開く深い読み

文章を理解するためには、学習の方法を習得することが必要です。

教材文や活動の前に「学びナビ」を新設し、その教材で「何を学ぶか」を示し、見通しをもつて学習を進められるようにしました。

「何が」だけではなく「どのように」書かれているかを学ぶことで、教材をより深く読むことが可能になります。

文学的文章の学びナビ

「文学の読み方」の 一般的な説明

「読み方」を把握し、
本文の読みに結びつける

「ここが大事」に
重要な点を明記

自分の力で読むための
手助けとなる「参考」

文学作品の構成や表現の仕掛けを知ることで、読みを深める力を養います。

▲2年P 246『走れメロス』

学びナビ

教材

学習の手引き「みちしるべ」

説明的文章の学びナビ

一般的な説明的文章を読むための ポイント・着眼点の解説

本文の内容を、キーワード
を中心に整理

本文の特徴や目的に応じて読むためのポイント・着眼点の解説

学びナビに示された観点に
基づく教材の概要のまとめ

▲ 1 年P 200『言葉がつなぐ世界遺産』

以下、文学的文章と同じく、「目標」→「みちしるべ」→「振り返り」と展開する。

論理展開の仕方や、表現の工夫を読むことで、筆者の考えを的確に捉える力を養います。

「学びナビ」の主な内容 (読むこと)

小説教材

語り手・語り方／象徴表現／
小説の時間／変化する語り／
一人称の「私」

詩歌教材

オノマトペ／比喻・象徴／
想像・イメージ／文体・リズム

說明文教材

文章の構成／論理の展開／
根拠と主張／主張と推論／
批判的な読み

詳しくは **➡別冊⑥** を参照。

「学びナビ」にはこんな機能があります。

- ・読み方や読む観点を明確にする。

- ・内容を正確に把握するための方法を学ぶ。

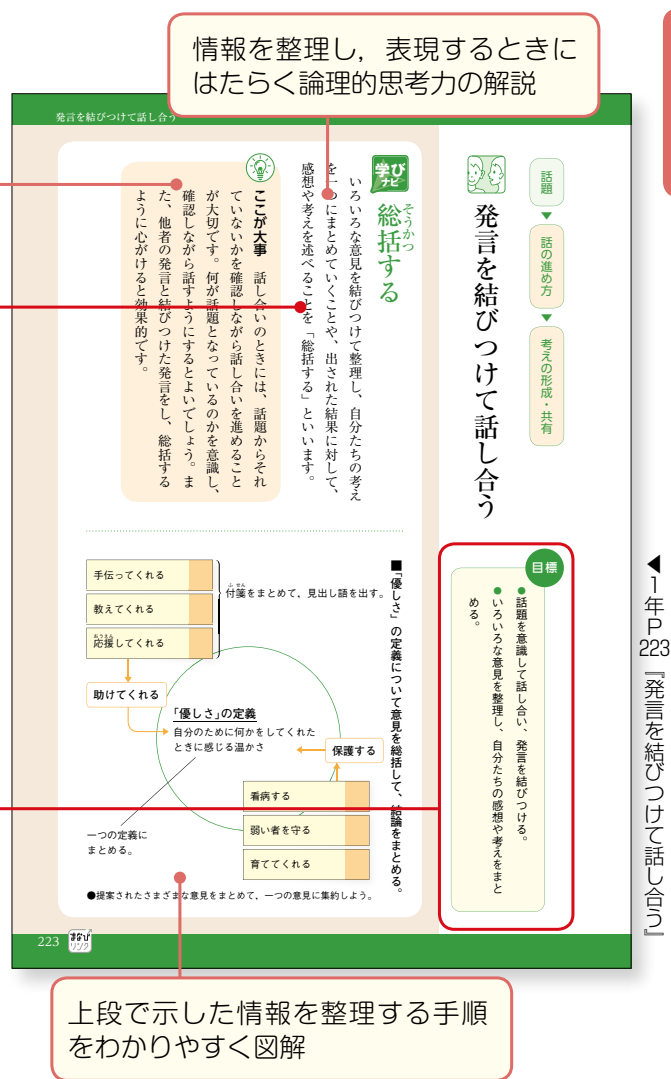
・「言葉による見方や考え方」を捉え、考え

を広げたり深めたりする。

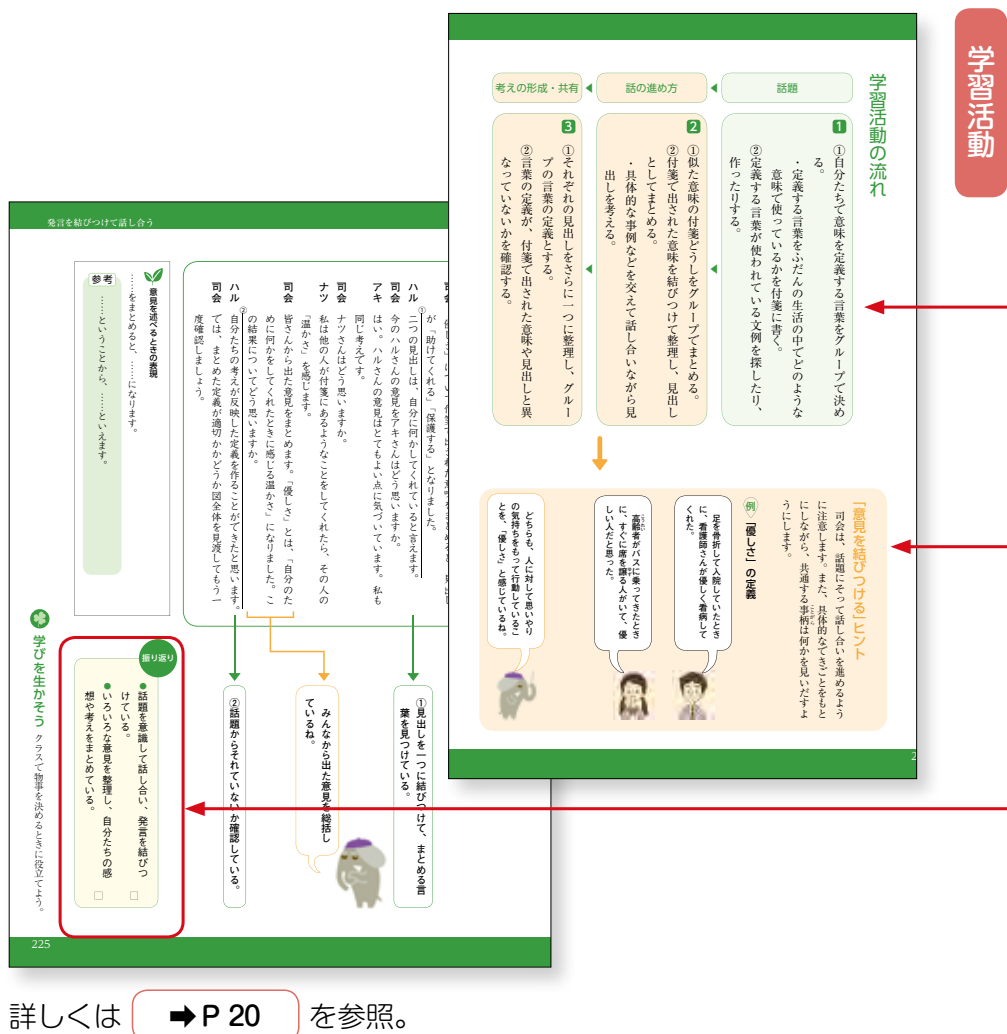


「学びナビ」が開く主体的・対話的な表現
よりよい表現のためには「どう考えればよいか」を知ることが重要です。
「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材では、表現活動の中ではたらく「思考力」を学びます。

学びナビ



学習活動



「学びナビ」の主な内容

(話す・聞く／書く)

話すこと・聞くこと

課題を設定する／限定する
／関係づける／予想する／
総括する／一般化する

書くこと

課題を設定する／比較する／
関係づける／推論する／
評価する／組み立てる

詳しくは **➡ P 20** を参照。



人見誠（ひとみまこと）
目黒区立東山中学校主幹教諭。
東京都中学校国語教育研究会事務局長。

生徒の学びと

教師の授業作りを支えたい

人見誠

「国語は何を勉強すればいいのかわからない。」生徒からよく聞かれる言葉です。特に、「読むこと」の学習で多く聞かれます。新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が求められています。が、「深い学び」を実現するためには、前提となる「確かな学び」が必要です。そのためには入念な教材研究が欠かせませんが、現場の教師、特に若い先生にとっては時間を確保することは困難です。「学びナビ」は、教師にとっては授業作りの指針となり、生徒にとっては「何を学べばよいか」を示し、「確かな学び」に導いてくれる存在です。また、共通の目標をもつことで、交流活動も円滑に進めることができます。さらに、目標がはっきりすることでつきたい力が明確になり、評価もしやすくなります。そして、授業準備や評価の効率化は多忙な教師の助けとなり、今叫ばれている「働き方改革」にもつながるのです。まさに、これからの時代にふさわしい教科書だといえるのではないのでしょうか。



樺山敏郎（かばやまとしろう）
大妻女子大学准教授。
元文部科学省国立教育政策研究所
学力調査官・教育課程調査官。

学力向上と新しい国語教科書

樺山敏郎

全国学力・学習状況調査等の結果にみる中学校国語科の課題は、「伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすること」「複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること」などです。こうした課題は、教科国語の課題であるとともに、各教科等に横たわる学習の基盤となる課題でもあります。言葉を直接の学習対象とする国語科への期待は大きいものがあります。国語科でつける資質・能力は、系統的・段階的に上の学年につながるもので、螺旋的・反復的に繰り返すことで定着を図るものです。

こうした系統や段階、螺旋や反復という概念を、生徒はどれだけ意識しているでしょうか。今回、そこへアプローチし、「学びナビ」を新設しました。単元や題材の学びが、これまでの学びからどう発展するか、ここでの中心的なねらいは何か、これからの学びにどう活用できるかを、生徒の視点に立つてビジュアルを工夫して示しました。いわば学びの羅針盤としての役目があり、見開きのページの確実な習得と各教科等での活用が必ずや学力向上につながると期待しています。



SDGs

持続可能な社会の創り手を育成するために

↓ 別冊②

SDGsを国語科の視点で教材化

① SDGs教材「持続可能な未来を創るために」を全学年に新設しました。生徒一人一人が課題を発見し、「正解のない問い」に向き合いながら、考えを深めることが可能です。

② 各領域で扱う話題や題材を、SDGsの視点で選定しました。現代の多様な課題に対して自ら考え、意見を交流することで、「主体的・対話的で深い学び」を実現します。

言葉の地図

一年生で学ぶ内容と身につけたい言葉の力

話すこと・聞くこと					教材
子どもの権利（みちしるべ）	児童を結びつけて話し合う	調べた内容を聞く	内容を整理して説明する	お気に入りの一品を紹介する	1年1組 2年1組 3年1組 4年1組 5年1組 6年1組
P177	P223	P179	P47	P25	
	○	○	○	○	話者の設定、情報の収集、内容の検討 日常生活の中から話題を決める。集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討する。
○			○	○	話す 構成の検討、考えの形成 話の中心となる部分と付随的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考える。
		○			表現、共有 相手の反応を踏まえ、自分の考えがわかりやすく伝わるよう表現を工夫する。
					聞く 構成と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有 記録したり質問したりしながら内容を捉える。 共通点や相違点を踏まえ、自分の考えをまとめる。
	○				話し合う 話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめる。
報告	話し合い	質問	説明	紹介	話したり、聞いて質問したり意見を述べたりする。 少人数で話し合う。
語彙	情報	語彙	情報	語彙	知識および技能
	総括する	予想する	関係づける		学び 学びナビ

▲ 1年P8「言葉の地図」

①『持続可能な未来を創るために』

1年 人の暮らし方を考える

日常生活／環境／プラスチックごみ



- ・プロローグ——〈学びの旅〉へ
- ・「エシカル」に生きよう 末吉里花

2年 不平等のない社会を考える

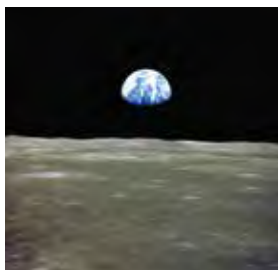
社会生活／人権／心のバリアフリー



- ・どう思いますか——新聞投書から言葉を考える
- ・「ここにいる」を言う意味 ロバート キャンベル
- ・一〇〇年後のみなさんへ 緒方貞子

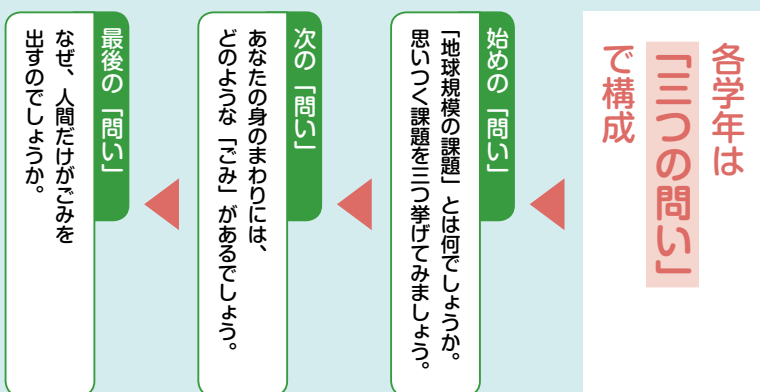
3年 人間の生命・存在を考える

グローバル／世界／未来の創造



- ・生命とは何か 福岡伸一
- ・地球は死にかかっている 手塚治虫
- ・エピローグ——再び〈学びの旅〉へ
- ・水の星 茨木のり子

深い学びの世界へ
多様な意見や価値観の違いを、対話を通じて「最適解」へ導く



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



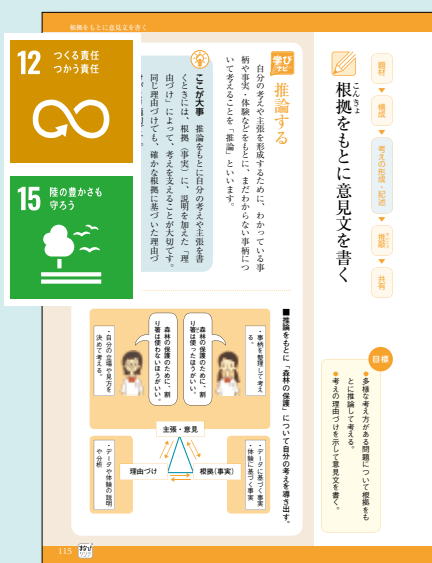
●SDGsとは

二〇一五年の国連サミットで採択された、二〇三〇年までに持続可能でよりよい世界を目指すために定められた国際目標です。地球上の「誰一人として取り残さない」を合い言葉に、17のゴール、169のターゲットから構成されています。日本国内でも、企業・自治体などが積極的に取り組んでいます。

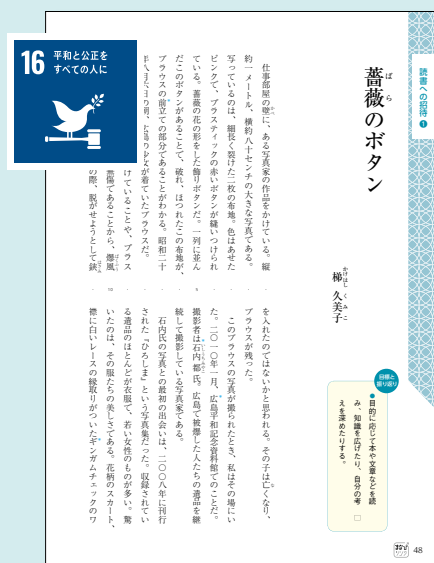
②全学年、各領域でSDGsを取り入れた話題、題材を設定



▲ 1年P170『子どもの権利』



▲ 2年P115『根拠をもとに意見文を書く』



▲ 3年P48『薔薇のボタン』